

かにまんじしゃかによらいざぞう 国宝 蟹満寺釈迦如来坐像

—古代大型金銅仏を読み解く—

みふねはるひさ
三船温尚 (富山大学・鑄造技術史)

おく たけお
奥 健夫 (文化庁・仏教美術史)

編 蟹満寺釈迦如来坐像調査委員会 著

【本書の特長】

- 本像は、薬師寺金堂像とともに仏教美術史上の重要な古代金銅仏で、国宝に指定された傑作。
- 手がかりが乏しかったために研究が進んでいなかった、謎多き古代仏。
- 仏教美術史、鑄造技術史、金属材料学、考古学、年代測定、3次元レーザー計測など、多角的な調査で徹底調査。
- カラー図版約300点(56頁)を含め、約700点もの図表や、数値データ、観察記録など、今後の調査に資する基礎データを提供。
- 3次元レーザー計測により、各所の肉厚の分布や、型持ち・鑄掛けなどを正確に確定し、わかりやすく図示。
- X線透過写真により、顔面の鑄掛けを確定。
- 体内調査により、一鑄(一度の注湯で造る方法)であることを確定。
- 製作技法は分割型鑄造法か、蠟型鑄造法か、異なった分野の専門家がそれぞれの調査結果をもとに考察。

【ご購入の案内】 ISBN978-4-8406-2083-3

- 造本 A4判上製本・貼函入・250頁予定
- 印刷 資料編：カラー56頁・モノクロ80頁
研究編：モノクロ114頁
- 定価 26,250円 (本体25,000円+税5%)



【蟹満寺へのアクセス】

京都府木津川市山城町綺田浜36
電話 0774-86-2577
交通：JR奈良線榎倉駅下車、徒歩20分
拝観時間：8時～16時
拝観料：500円

【発行】 八木書店 出版部

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8

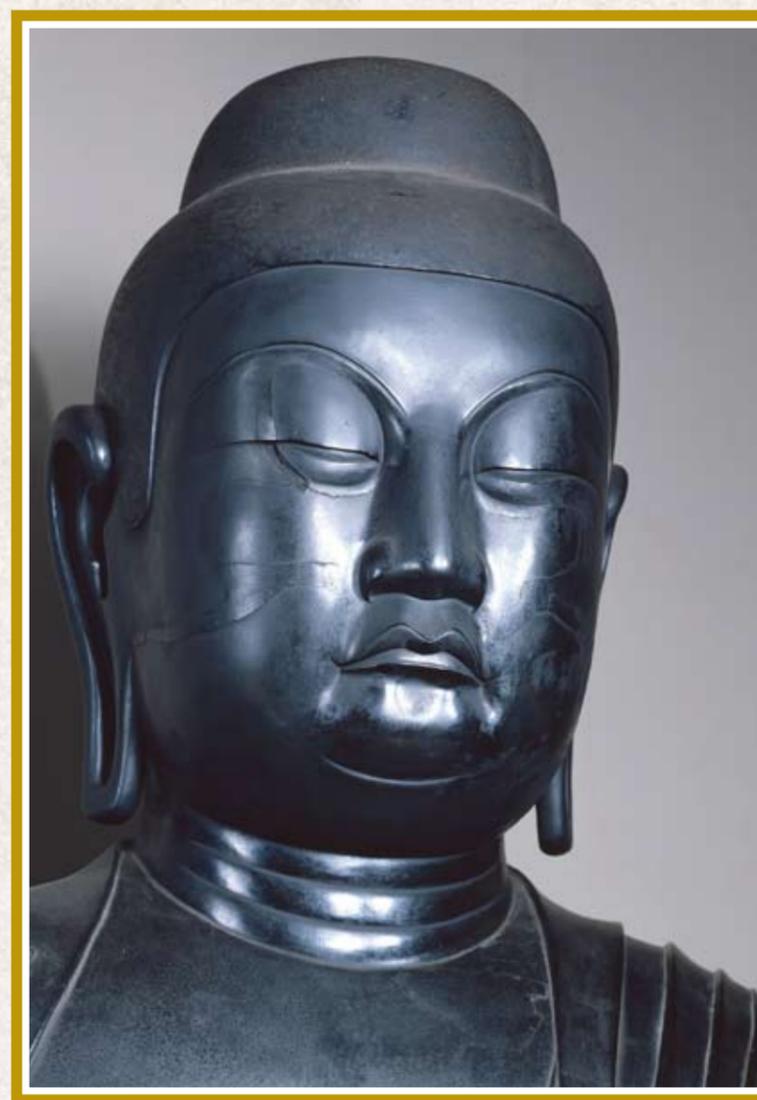
●TEL:03-3291-2961 [営業] 03-3291-2969 [編集] ●FAX:03-3291-6300

●E-mail:pub@books-yagi.co.jp ●Web: http://www.books-yagi.co.jp/pub

かにまんじしゃかによらいざぞう 国宝 蟹満寺釈迦如来坐像

—古代大型金銅仏を読み解く—

約700点の図版収録！
年代測定、3次元レーザー計測、
蛍光X線成分分析などなど、多角的に調査！
仏教美術史、鑄造技術史、金属材料学、考古学、



(写真撮影：小川光三)

なぞの金銅仏はいつ、どうやって造られたか
薬師寺像との前後関係など、仏教美術史に再検討を促す！
彫刻史上の傑作のなぞに迫る！
白鳳から天平にかかる数少ない古代大型金銅仏

三船温尚 (富山大学・鑄造技術史)

奥 健夫 (文化庁・仏教美術史)

編

蟹満寺釈迦如来坐像調査委員会 著

【内容見本】

2011年12月刊行予定！ 定価26,250円(本体25,000円+税5%)
A4判・上製本・函入・250頁(予定) ISBN978-4-8406-2083-3 C3071 ¥25000E

八木書店

Kaniman-ji Temple is Founded before the Nara period, located in the Yamashiro area of Kyoto prefecture, and known for its magnificent 2.5 metre bronze sculpture of Shaka Nyorai. This book is the record which investigated this Buddha statue on many sides.

八木書店刊	2011年12月刊行予定	取扱店(番線印)
国宝 蟹満寺釈迦如来坐像	[] 冊	
ISBN978-4-8406-2083-3 C3071 ¥25000E	定価 26,250円 (本体25,000円+税5%)	
お名前 (ふりがな)	TEL	
	FAX	
ご住所 〒	E-MAIL	

目次

- 仏教美術史から見る調査意義 ----- 奥 健夫
- 考古学から見る調査意義 ----- 中島 正
- 鑄造技術史から見る調査意義 ----- 三船温尚

I部 資料編

- (カラー図版) 全 56 頁
- 全体写真 / 蟹満寺 発掘写真 / 内部・金痕跡・中子写真
- 3次元レーザー計測図 / 鑄掛け調査図
- (モノクロ図版) 全 80 頁
- 全体写真 / 外面部分写真 / 3次元レーザー計測図
- X線透過写真 / 蛍光X線成分分析 / 型持ち・亀裂調査図

II部 研究編

- 蟹満寺発掘調査からの検証 ----- 中島 正
 - 仏教美術史からの検証 ----- 奥 健夫
 - 3次元レーザー計測からの検証 ----- 嘉納和之・田畑徹也
 - X線透過写真からの検証 ----- 三船温尚・長柄毅一・篠田邦彦
 - 蛍光X線分析装置による非破壊分析 ----- 長柄毅一
 - 炭素 14 年代測定からの検証 ----- 吉田邦夫
 - 像表面の金痕跡と右前腕内部観察からの検証 ----- 八坂寿史・梅村哲史・嶺川正則
 - 鑄造技術調査からの検証 ----- 三船温尚・遠藤 透・采翠真澄・戸津圭之介
- まとめ ----- 三船温尚・奥 健夫
参考文献 ----- 三船温尚・奥 健夫

刊行の意義

奥 健夫 (文化庁)

蟹満寺釈迦如来像は薬師寺金堂薬師三尊像とともに古代大型金銅仏の遺品としてよく知られた作例であり、現在 127 件を数える彫刻の国宝指定物件の一つとして、文字通り日本を代表する彫刻作品である。

しかしながら本像に関する研究は決してこれまで多くない。それは本像が重要視されていないからではなく、本像を考える手掛かりが乏しいことによる。すなわち本像は蟹満寺に後世に移坐されたとされ、原所在地について諸説があり、その製作事情について確かなことはほとんど何もいえない状況にあった。然るに近年、蟹満寺境内発掘調査により本像が 7 世紀末頃に建てられた蟹満寺の本来の本尊であった可能性が提示され、それに関して反論も行われるなど議論が活発化している。

様式からいえばその製作年代は、7 世紀後半から 8 世紀半ばまでの間とみられるが、その中のどこに置くかについては説が一定していない。

本像を論じようとするとき常に問題となるのは、本像とならぶ丈六金銅仏の遺品で、かつ像容が類似する薬師寺金堂薬師三尊像の中尊像との関係であり、この点についても薬師寺像より前に置く見方と、同像より遅れるとする見方が対立している。

今回行われた鑄造技法を主とする調査研究ではこれらの点について考えるうえで大きな手掛かりを提供する知見がいくつか得られた。まず蟹満寺像の重量が薬師寺像よりはるかに軽い 2172 kg であり、銅厚が体部の主な箇所 2~3 cm ほど、非常に薄手に造られていることが挙げられる。鑄掛けにより顔立ちを修整していることが知られたのも注目すべき知見である。さらにいくつかの点から本像が蠟型ではなく土型で造られた可能性も示されるに至っている。調査結果の分析は慎重になされるべきであることはいまでもないが、本像と薬師寺像との関係について従来の考え方に再考を促し、本像の美術史上の位置付けに大きく寄与するデータが得られている。そしてそれは日本彫刻史上、最大の問題の一つというべき薬師寺像論争の行方にも影響を与えるものとなる。

(本書「仏教美術史から見る調査意義」を抄録)

なぞ多き仏像の素顔に接近する 多角的な調査の数々！



【調査①】像内を撮影する
面部内面（下から口、鼻、目）。通常は決して見ることのできない、像の内面からのカラー写真 244 点を掲載。



【調査②】外面を間近で撮影する
面部。両頬に鑄掛け凝固収縮の隙間を塞いだ象嵌。モノクロ写真 80 点を収録。



【調査③】蛍光X線で成分分析する
初鑄・鑄掛け・型持ち（中型と外型の隙間）に入れる金属の断片など、256箇所の分析値と位置を示す。



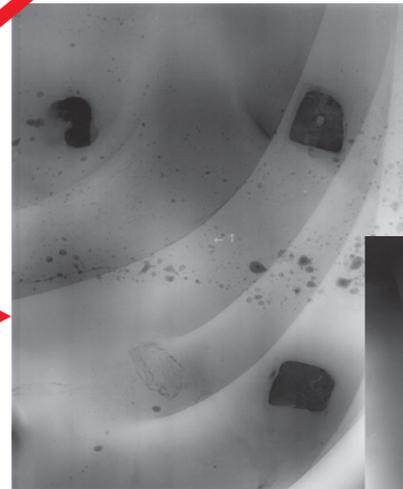
【調査④】型持ち・亀裂を图示する
観察から得られた型持ちの痕跡と亀裂を图示。



【調査⑩】地中を掘る
近年、蟹満寺境内を発掘調査した結果、7世紀末頃の白鳳期の建物跡が検出。本尊が別の寺院から運ばれてきた通説に再検討を迫ることに。



(写真撮影：小川光三)



【調査⑤】X線透過写真で内部を見る
鑄掛けした痕跡などが確認できる。写真合計 186 点を収録。

下図：左耳。面部初鑄部分と鑄掛けの境に鑄掛け凝固収縮の隙間が見える。



上図：正面胸から腹部。上下の型持ちの間に気泡が水平方向に集中している。



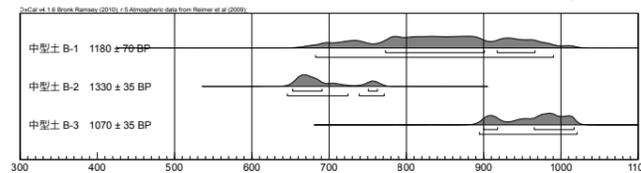
【調査⑦】厚みを計測する

像内外面の 3次元レーザー計測により、像の厚みを 2mm単位で検出。体の主要部分が 2~3cmの厚みで、薄手に造られていたことが判明。左：縦断面図、右：厚さ分布図 カラー図版 48 点、モノクロ図版 72 点を収録。



【調査⑨】鑄掛け（初鑄後の部分的鑄造）の痕跡を見抜く
内面観察、X線透過撮影などから判明した鑄掛けの痕跡を色分けで图示。

※鑄掛け1~60を5色に分けて示す。同色が同時鑄造という意味ではない。



【調査⑧】炭素 14 年代法で年代を測定する

3つの中子土を調査した結果、7世紀代にまで遡る数値に。